

幻の総社銘菓

# 養老糖の再現

総社の味を再発見して楽しむ会

養老糖ってどんなお菓子

# 養老糖の棊 (まちかど郷土館蔵)

第四回国内勲章博覧會  
 褒状



## 養老糖

本舖製造する處の養老糖は我が祖三谷與一右衛門の發明に係り元祿の昔淺野内匠頭の名代大石良雄原辰備中松山城受取として下向の途次我が總社驛に宿泊したまひぬ當時我祖此菓子と獻じて旅の徒然と慰したりと二氏歎賞して曰く味美にして滋養多し以て老を養ふに足る須らく養老糖と名くべしと是此名の因に起る所以にして後二氏書翰を寄せて謝意を表せらる其書現に傳へて家寶とせり降つて文久年間則當代に至り我が淺尾藩主蒔田家の菓子御用達となり御菓子司を免許せらる爾來幾多の工風を凝らし益原質を精撰し製煉方日夜丹誠を抽んづる茲に歳替し今茲明治廿八年第四回内國勲業博覽會に出品し時にも總救宮殿下より褒状を下賜せらる眞に無前の光榮なり今試に此菓子の他に優るものを擧ぐれば曰く滋養多さなり風味良さなり盛夏嚴冬の時候と雖も其味を變せざる是なり又本品の茶に適するは夙に諸彦の熟知せらるゝ處なりよりて遠路御進物等には最も恰好の品なりとす

岡山縣備中國賀陽郡總社桑町

竹榮堂

製造本舖

三谷與一 謹白

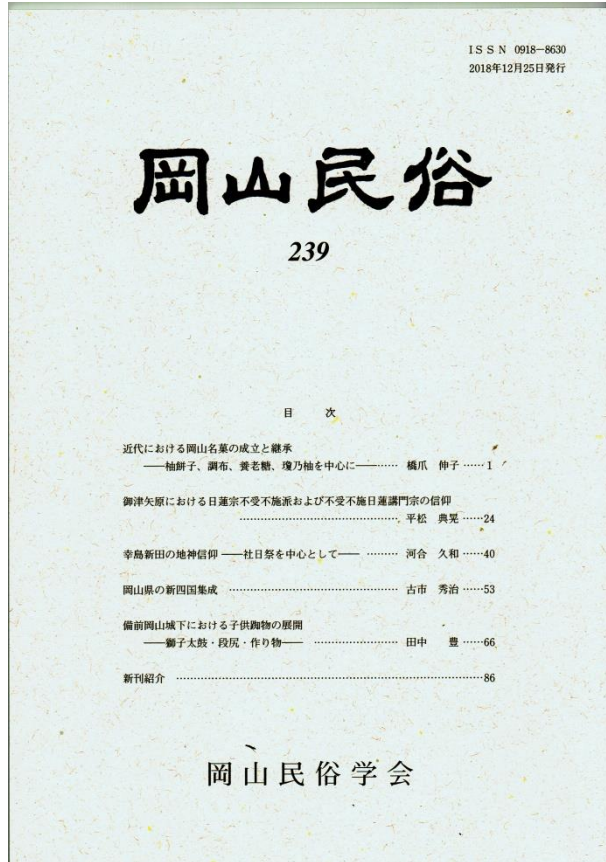


# 発見された養老糖のラベル (個人蔵)





# 橋爪氏が論文を寄稿した岡山民俗



## 目次

近代における岡山名菓の成立と継承  
—— 柚餅子、調布、養老糖、瓊乃柚を中心に—— …… 橋爪 伸子 …… 1

御津矢原における日蓮宗不受不施派および不受不施日蓮講門宗の信仰  
…………… 平松 典晃 …… 24

幸島新田の地神信仰 —— 社日祭を中心として—— …… 河合 久和 …… 40

岡山県の新四国集成 …… 古市 秀治 …… 53

備前岡山城下における子供跣物の展開  
—— 獅子太鼓・段尻・作り物—— …… 田中 豊 …… 66

新刊紹介 …… 86

さらに発見が続きます



# 三谷竹栄堂の菓子型など







# 三谷輿一郎が残したレシピ

方栗製法

生砂糖ニツグチ  
イモ、ノニシルヲ入レ  
方栗ヲトマセ子ル  
ベシ

金玉糖

砂糖ニカンテニ共  
入レ火ツノヨウノ

ニツオキヤル  
ヘテニツケツル三四寸  
ホド引クヨウニナレバ  
箱ニウツスベシ

甘平餅

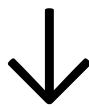
・試作



・試食会、講演会



・改良、新しい味への挑戦



・販売



# 試作の様子



# 文献調査(東京都中央図書館)





# 再現できた？ 江戸の味



# 試食会用 チラシ 2案

## 幻の総社銘菓「養老糖」

総社には幻の総社銘菓といわれる「養老糖」があります。この菓子は商店街筋の栄町に店舗を構えていた竹栄堂(三谷氏)によって製造され、この名は江戸時代中期の元禄時代(1688~1704)に松山城を受け取りに来た大石内蔵助がこの菓子を食べ、「味美にして滋養多し、以て老を養ふに足る。須らく養老糖と名くべし」という逸話がのこっています。

明治時代には産業の発展や技術の披露などを目的として内国勲業博覧会が開催されました。この勲業博覧会の菓子の部(今でいう菓子博)において、地域の銘菓にあたりする菓子には褒状が授けられています。五回開催された勲業博覧会には岡山県からも多くの菓子が出品されています。中でも吉備団子(岡山)、柿餅子(矢掛)、初雪(津山)、養老糖(総社)の四つ菓子は二度も受賞しています。養老糖以外は今でも岡山銘菓として親しまれています。

このように総社においては特筆した銘菓でした。しかし、昭和中期に三谷氏は廃業し、その製法や形状が判らなくなり、その後人々の記憶から消えることになり、いまではその味や形が全く判らなくなっていました。唯一、今に伝わっていたのがまちかど郷土館に一菓のしおりのコピーが残るのみでした。

ところが、昨年夏以降に偶然が重なるように当時使っていた養老糖のラベル(上記写真)が発見されたり、内国勲業博覧会受賞した菓子の材料がわかる資料が見つかったり、養老糖を作っていた三谷興一郎が書いた古文書「菓子萬覧帳」が二冊も発見され、彼の顔写真も探し出すことができました。養老糖が「僕のことを忘れないでく」という叫び声をあげているように思えました。そこで、総社市の市民提案型事業に応募、採択されて、再現に向けて動き始めました。

四月二三日から現在までに六回の試作を行っています。材料の分量は文献でなく、当初は全ての材料を混ぜて煉り、形にならないものでした。この状態をみなさんにご試食頂けるのではないかと、ですが、私たちは形を「結び」にしたが、「過去」と「知恵を結ぶ(今を)」一人一人から考えました。どうぞ試作品を召し上がって、ご感想を伺いたしたいと思います。

総社の味を再発見し楽しむ会

## 総社の幻の銘菓「養老糖」

総社の幻の銘菓と呼ばれていた「養老糖」の再現し、マルシェではモニター試食会(有料)を開催したいと思っています。

再現に向けて試行錯誤…

多くの方に試食アンケートにご協力いただき復元に向けてアドバイスいただきたいと思います。

「養老糖」とは…

総社には幻の銘菓と呼ばれる「養老糖」がありました。このお菓子は総社の商店街にあった三谷竹栄堂によって製造されており、江戸時代に松山藩の受け取りに赴いた大石内蔵助が、総社に立ち寄った時に賞味し「養老糖」という名前をつけたという逸話が残されています。

明治時代に開催された内国勲業博覧会(今でいう菓子博)で2度の褒状を受けた「養老糖」。しかし、昭和中期には三谷竹栄堂は廃業され、その製法や形状が不明となり、人々の記憶から消えることになりました。

平成最後の年、偶然が重なるように「養老糖」に係わる資料が集まり、それはまるで養老糖が「私のことを忘れないで…」と言っているようでもありました。幻の銘菓といわれる「養老糖」を再現し、江戸時代の味を味わい、江戸時代の味を次世代へ引き継いでいきたいと考えています。



総社の味を再発見し楽しむ会



# 試食会 備中マルシェ



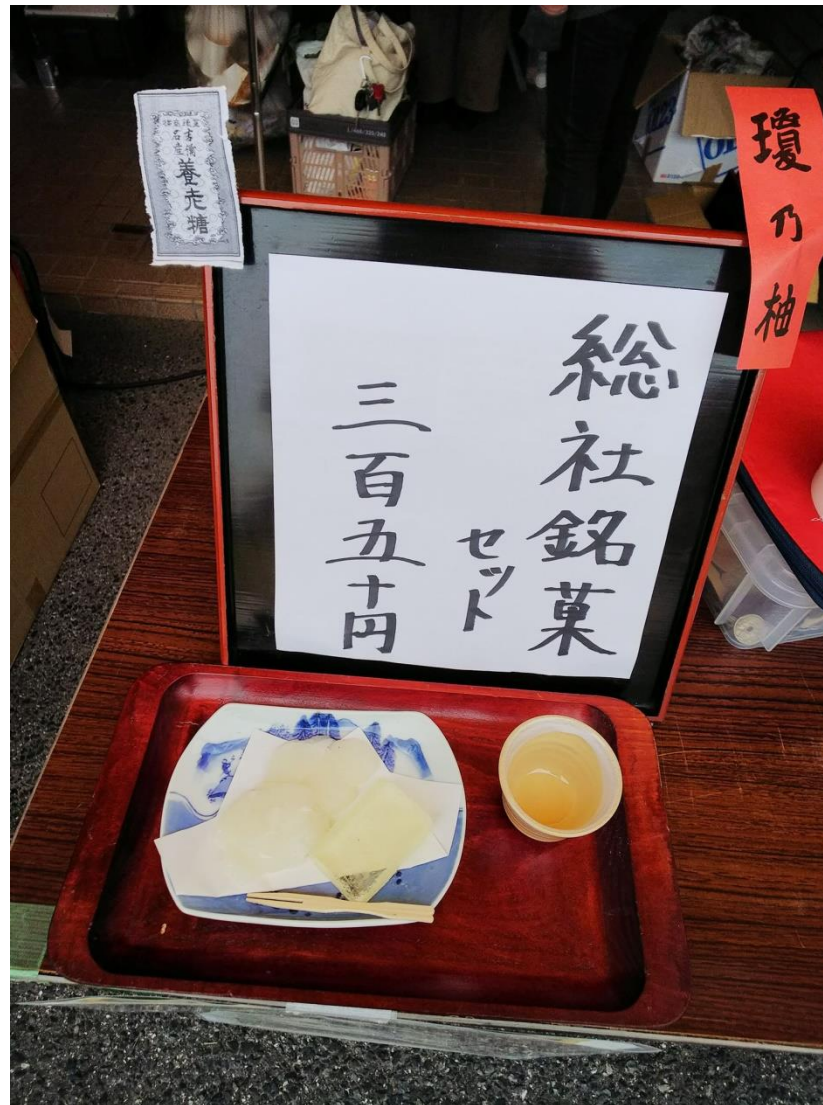
# 試食会 備中マルシェ



再現された「養老糖」の味は一



# 試食会 わくわくマーケット





# 試食会 わくわくマーケット



# アンケートの結果は

- 素朴で美味しい
- 江戸時代の味が味わえた
- お茶とよく合う
- 甘味が強すぎる
- 販売するには華やかさが無い
- 瓊の柚の方がおいしかった



# 新たな味の創造



# 新たな味の創造





# メンバー集合写真





ご支援  
ありがとうございました

総社の味を再発見して楽しむ会